

平成28年度 継続被災地支援活動「福島県への継続文化支援活動」報告

【福島応援人形劇公演 Part4】

- 1) 日程 平成29年2月16日(木)～21日(火)
- 2) 場所 福島県伊達郡川俣町の幼稚園・小学校、福島市の学童クラブ・幼稚園・保育所・子育て支援センター、伊達市の保育所にて人形劇公演を実施。
- 3) 参加劇団 人形劇団野良犬+PLUS (2名)、カムバックサーモン (3名)、人形劇団オセロ (2名)、ピエロのチョコ (1名)、劇場スタッフ (1名)
- 4) 公演記録

人形劇団野良犬+PLUS & カムバックサーモン

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
2/16(木)	10:00	川俣南幼稚園 伊達郡川俣町字仲ノ内2番地-6	人形劇&人形浄瑠璃 「おさる三番叟」 パネルシアター 「カレーライス」 「ママのおけしょう」 背負子人形劇 「おむすびころりん」	84名 (子80 大人4)
	14:15	川俣南小学校(1年生) 伊達郡川俣町川原田46	パネルシアター 「カレーライス」 「ママのおけしょう」	14名 (子13、 大人1)
	14:15	川俣南小学校 (2年生+特別支援学級) 伊達郡川俣町川原田46	背負子人形劇 「おむすびころりん」 手遊び「おーちたおちた」	31名 (子29、 大人2)
2/17(金)	10:20	福島ほなみ保育園 福島市栄町11番25号AXC ビル7階	パネルシアター 「カレーライス」 「ママのおけしょう」 背負子人形劇 「おむすびころりん」	78名 (子70、 大人8)
	16:00	たかくら家kid'sハウス 福島市笹木野字笹木野町24-1		61名 (子58、 大人3)
2/18(土)	10:00	あづま脳神経外科病院 保育ルームゆきうさぎ 福島市大森字柳下16-1		24名 (子20、 大人4)

人形劇団オセロ&ピエロのチョコ

月/日(曜)	開演時間	会場	公演プログラム	観客数
2/16(木)	15:30	あおぞら学童クラブ 福島市南沢又字柳清水20 (清水小学校敷地内)	テーブルシアター 「たまごにいちゃん」 人形劇 「ばけくらべ」 ピエロショー	57名 (子53、 大人4)
2/17(金)	10:30	いいたて子育て支援センター すくすく園 福島市大森柳下25-1		49名 (子22、 大人27)
	15:30	瀬上保育所 福島市瀬上町字寺後6		65名 (子61、 大人4)
2/18(土)	10:00	わんぱくらんど 伊達市保原町元木61-4		33名 (子24、 大人9)

5) 写真で見る公演及び調査記録

人形劇団野良犬+PLUS & カムバックサーモン

①川俣南幼稚園



- 日本の古典芸能である人形浄瑠璃と、現代人形劇を組み合わせた演目「おさる三番叟」を上演。小さな子どもたちにとっては普段触れる機会の少ない古典芸能に親しみを持ってもらう機会にもなった。愛嬌のあるお猿の人形に子どもたちは興味津々だった。
- 今回の福島支援活動には、やまびこ座・こぐま座で人形劇や演劇の活動をしている大学生も参加。子どもたちに楽しんでもらえるように工夫をしたパネルシアターを披露。元気で楽しいお兄さん、お姉さんの姿に子どもたちも大喜びであった。
- 上演後は、園児と一緒に昼ご飯をごちそうになった。人形劇のお礼にと、子どもたちが人形劇や川俣町で有名な「コスキンパレード」の踊りを披露してくれた。

②川俣南小学校（1年生）（2年生、特別支援学級）



➤当初一会場で実施する予定であったが、インフルエンザの流行もあり急遽2クラスに分かれて公演を行うことになった。劇団が二手に分かれそれぞれ違う演目を上演。小規模ながらも子どもたちと近い距離で楽しい時間が過ごせた。

③福島ぼなみ保育園



➤公演前に園児たちと遊ぶ時間が取れた。ただ観てもらっただけではなく触れ合う時間があることでお互い親しみを持って一体感のある時間が共有できた。
➤公演終了後に、園児たちのメッセージが入った折り紙のペンダントをもらった。大学生にとってははじめてのことでも喜んでいて。小さな子どもたちの生の反応を肌で感じる事ができたのは、とても良い経験であったと思う。福島で得たたくさんの経験が若いメンバーの成長につながって欲しいと感じている。

④たかくら家kid'sハウス



- 会場いっぱいの子どもたちで熱気に包まれた。学童クラブでの公演ということで高学年の子どもたちも多かったが、パネルシアターなど一緒に参加し楽しんでくれていた。
- 先生たちも子どもたちと一緒に公演を盛り上げ楽しんでくれた。

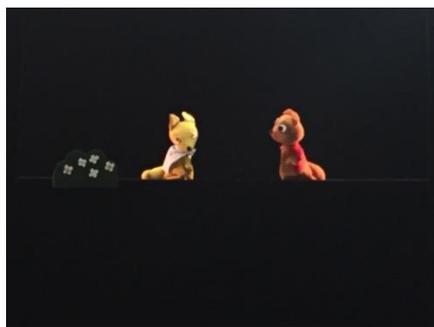
⑤あづま脳神経外科病院保育ルームゆきうさぎ



- 病院の敷地内にある保育ルームでの公演。2歳から小学生までの子どもたちが人形劇を楽しんでくれた。観劇の年齢に幅があったので、笑ったり声をあげるタイミングがそれぞれ違い反応が面白かった。
- 公演終了後は一緒に記念撮影を行った。

人形劇団オセロ&ピエロのチョコ

①あおぞら学童クラブ



- 1年生から6年生までが観劇し、高学年の男の子も大声を出して笑っていたのが印象的。
- 学童の先生も興味津々で、ピエロのチョコさんから開演前にバルーンを習うなど、和気あいあいと過ごすことができた。

②いたて子育て支援センターすくすく園



- この施設は当初飯舘村に建設予定であったが、東日本大震災の影響で福島市にオープンした。
- 2歳くらいの小さい子が多かったが、積極的にピエロのお手伝いをするなど興味津々の様子であった。

③瀬上保育所



- とても元気な子が多く、最後に「あそびの劇場」の宣伝をした際も「日曜日行くからねー！」と声をかけてくれた。

④わんぱくらんど



- ちょうどよい広さの会場で近い距離で上演することができた。
- 小さい子も多かったが、集中して人形劇やピエロの不思議なショーに見入っていた。
- 最後には手作りの首かざりをプレゼントしてくれた。

【地域交流事業②】

地域交流イベント『あそびの劇場』

～札幌のやまびこ座・こくま座からあそびのキャラバン隊がやってくる～ in こむこむ

- 1) 日 時 平成29年2月19日(日) 10:30～15:00
- 2) 場 所 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ・にぎわい広場(福島市早稲町1番1号)
- 3) 参加劇団 人形劇団野良犬+PLUS(2名)、カムバックサーモン(3名)、人形劇団オセロ(2名)
 ピエロのチョコ(1名)、劇場スタッフ(1名)、札幌市児童会館等スタッフ(3名)
 福島現地スタッフ(9名)
- 4) イベント参加者数 延べ975名

時間	プログラム内容	備考	参加者数
10:30 ～ 15:00	遊びのコーナー	工作会、昔あそび、木のおもちや、折り紙、お絵かき、読み語り	448名
11:00	ミニステージ① 「人形劇団オセロ」	テーブルシアター 「たまごにいちゃん」 人形劇 「ばけくらべ」	187名
11:40	パントマイムワークショップ	ピエロのチョコによるパントマイムのワークショップ	20名
13:00	ミニステージ② 「ピエロのチョコ」	ピエロショー	140名
13:40	読み語りタイム	大型絵本 「へんしんトンネル」 「おめんです」	62名
14:20	ミニステージ③ 「人形劇団野良犬+PLUS」	背負子人形劇 「おむすびころりん」 パネルシアター 「カレーライス」	118名

5) 写真で見る公演及び調査記録





- こむこむでのイベント開催は昨年度に引き続き2回目となるが、今回は広く人目に付きやすい会場をお借りし実施できたため、子どもから大人までたくさんのお客様に来ていただくことができた。
- イベントスタッフとして、福島の現地スタッフが9名参加してくれた。学校で人形劇指導を行った川俣高校の学生や、福島大学の学生、昨年人形浄瑠璃体験ワークショップに参加し、進学・就職した若者がスタッフとして参加してくれるなどこれまで行ってきた活動が一つずつつながっていることが実感できた。学生のスタッフが充実しどのコーナーも楽しく盛り上げてくれたことも影響し、来場者のアンケート結果も好評であった。また、人形劇公演をした保育園や学童の子どもたちもあそびに来てくれて、とてもにぎやかな雰囲気となった。

【その他】

福島滞在の最終日(2月20日)に、次年度の下見と打ち合わせのため福島県飯舘村を訪れた。東京電力福島第一原発事故の影響により非難指示がでていた地域であるが、2017年3月31日付で帰還困難区域を除いて避難指示が解除される。(※3月31日で浪江町・川俣町・飯舘村、4月1日に富岡町の避難指示が解除され、その対象は合計で約3万2千人)

今回はワークショップや人形劇公演、あそびのイベントと長期に渡り福島県に滞在したが、人形劇公演等で訪れその地域を歩いても、一見何ら変わりなく日常生活を送っているように見え原発事故の影響などは意識をしなければわからないかもしれない。意識をして見ていけば、公共施設、幼稚園・保育園、学校施設などに線量計が設置されていたり、現地の方のお話を聞くことができれば、ここが被災した地域であり原発事故後の変化や今もなおその影響により苦しんでいる方が大勢いること、簡単には解決できない多くの問題を抱えていることがわかるが、北海道に住む私たちは問題意識を持って自分から情報収集をしたり、実際に現地に訪れることがなければ、なかなか情報が入ってこないのが現状ではないかと思う。

飯舘村に向かう途中、おびただしい数の黒い大きな袋が積み重なっている光景が目に入った。黒い袋には除染により集められた汚染土が詰められている。今回福島を一緒に訪れた大学生たちにこのことを説明すると衝撃を受けていた。これは一場面に過ぎないが、実際に被災地を訪れ自分たちの目で見て現地の方の話を聞いた時、どう感じるか。少なくとも無関心ではいられなくなるのではないかと思う。

今現在同じ日本の中で起こっている問題であること、違う地域に住む私たちにもいつ降りかかるかわからない問題であり、決して他人事ではないこと。無関心にならず意識していくことの大切さを改めて感じた。



やまびこ座には、公演で訪れた幼稚園や保育園、学童クラブなどからお礼の手紙や子どもたちの絵がたくさん届いており、被災地の活動報告と共にロビーに掲示をしている。劇場の来館者も足を止めて掲示をみてる方も多し。また、福島での人形劇公演に協力してもらっている劇団のみなさんにとっても、子どもたちのメッセージがとても励みになっている。館内での掲示もそうだが、ホームページやFacebook等のSNSなども活用し、被災地での活動状況や得た情報などを積極的に発信していくことも被災地での活動を続けている私たちの役割の一つだと考えている。

